

平成 24 年 11 月 1 日

トリコンビット損料の改訂について

平素は当協会のご利用を頂き厚く御礼申し上げます。

おかげさまで当工法も 20 年を超え、皆様にご愛用いただいております。

すでに平成 24 年版の技術積算資料を配布いたしておりますが、これまでの岩盤推進の実績の中で、著しく日進量が低下したり、ビットが極端に摩耗する事例が生じております。

原因を調査した結果、岩盤の強度以外に岩盤中の硬質鉱物（石英等）の含有量によるものと判明いたしました。

以上を踏まえ、下記事項について改訂をさせていただくこととなりましたので、今後の計画の際にはご注意くださいようお願いいたします。

※適用対象：ロックマン工法、ロックマンエース工法の全ての管種について適用します。

【改訂箇所】

「第1章 工法の概要」の「ビット耐用距離」について

改訂前

土質名	耐用距離 (m)	損料率
溶結性岩盤・石英 含有量の多い岩盤	100	0.0104

注 4) ビット耐用距離は、岩石中の硬質鉱物含有率に大きく影響されるため、難掘進岩盤の内、特に溶結性の高い岩盤や石英含有量の多い岩盤については、ビットの磨耗が激しいため設計変更をお願いします。



改訂後

土質名	耐用距離 (m)	損料率
溶結性岩盤・ケイ酸塩 鉱物含有量の多い岩盤	65	0.0159

注 4) ビット耐用距離は、岩石中の硬質鉱物含有率に大きく影響されるため、難掘進岩盤の内、特に溶結性の高い岩盤やケイ酸塩鉱物（石英・斜長石・カリ長石）含有量が 70%以上の岩盤については、ビットの磨耗が激しいため設計変更をお願いします。